

思春期の子どもや保護者のメンタルヘルスにおける社会経済的地位の影響に関する調査  
Survey on the Impact of Socioeconomic Status on Mental Health  
among Adolescents and Parents

大学院人間文化創成科学研究科  
人間発達科学専攻 D3 劉 婧

## 1. 要約

(和文)

メンタルヘルス問題は現代社会において無視できない重要な課題であるため、ここ数十年、特に心理学分野では関連する研究が盛んに行われている。その中でも、メンタルヘルス問題を引き起こす要因に焦点を当てた研究が多くあり、その知見から社会経済的地位が要因の一つであることが分かった。特に、中国では1980年代から続く不平等の拡大を受けて、社会経済的地位はメンタルヘルス問題に至る各要因の中で、重要な要因の一つとも言える。しかし、社会経済的地位がメンタルヘルス問題に影響を与えるメカニズムは未だに解明されていない。そのため、本調査は社会経済的地位とメンタルヘルスとの関連を明らかにすることを目的としている。

調査結果から、保護者のほとんどが1)「高校、中等専門学校、専門高校、技術労働者学校」あるいは「大学」を卒業し；2)労働者であり；3)家庭の月収が8千元（約160000円）以下であることが分かった。よって、客観的に見ると、保護者の社会経済的地位は高くないと言えるが、多くの保護者は「自分は社会経済的地位が高い者である」と認識していることが示された。それに対して、子どもの中では「自分は社会経済的地位が低い者である」という認識を持っている人が多いことが示された。

次に、メンタルヘルスに関する分析結果を以下に示す。親のメンタルヘルスに関しては、ほとんどの親の精神状態が健康であることが分かった。一方、子どものメンタルヘルスの分析結果からは、大多数の子どもの精神状態があまりよくないことが示唆された。

(英文)

Mental health issues have drawn adequate attention in contemporary society. Over the past decade, there has been an ongoing effort to decode the underlying causes of this subject matter, particularly within the realm of psychology. Amongst the most significant factors investigated by researchers over the years, socioeconomic status emerges as a significant determinant. This is especially salient in the context of China, where the widening wealth gap since the 1980s has underscored the pivotal role of socioeconomic status in mental health outcomes. However, despite the strong association discovered in between, the precise mechanisms through which the

socioeconomic states impacts mental health remains vague. This promotes the proposed investigation to shed light on the intrinsic dynamic.

One intriguing fact found based on the survey data is the distinctive gap between parents' and children's perceptions on households' socioeconomic status. Parents from those households are judged as having moderate socioeconomic status based on three factors: 1) They graduated from either "high school, technical secondary school, secondary vocational technical school, or technical school" or "university,;" 2) They are employed as workers; 3) They have a monthly household income of less than 8,000 yuan (approximately 160,000 yen). However, a significant portion of parents perceive themselves as possessing a high socioeconomic status. Conversely, among their children, a notable proportion harbor the perception of belonging to a lower socioeconomic stratum.

Subsequent examination of mental health outcomes unveils that the majority of parents exhibit good mental well-being. In contrast, an analysis of children's mental health paints a different picture, indicating a substantial proportion experiencing suboptimal mental wellness.

## 2. 現地調査期間

2024年1月10日（水）～1月17日（水）

## 3. 調査背景

「世界メンタルヘルスデー調査」によれば、2022年時点で、人々のメンタルヘルスへの関心の高さはすでに他の数多くの健康問題を超えて、1位の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に次ぐものになった（イプソス 2022）（図1）。しかし、関心が高まったにもかかわらず、世界16の国と地域で実施された「マインドヘルスとウェルビーイングに関する調査（2023年）」によれば、前年と比較して精神状態の全般的改善が見られたが、心の健康状態が「なんとなく不調」、または「不調」を感じると訴えた人が41%も占めていることが示されていた（アクサ 2023）。特に、若年層において、そのようなメンタルヘルス問題がより深刻であることも上記の調査で指摘された。

		2018	2020	2021
新型コロナウイルス感染症	47%	N/A	72%	70%
Mental Health	36%	27%	26%	31%
がん	34%	52%	37%	34%
ストレス	26%	25%	21%	22%

図1 2022年度 世界メンタルヘルスデー調査 結果

よって、メンタルヘルス問題に影響を与える諸要因とそれぞれのメカニズムを明確にし、その知見を生かして人々、特に若年層の心理的健康をサポートしていく必要があると考えられる。しかしながら、メンタルヘルス問題に至る要因は数多くあり、その中には影響のメカニズムがまだ明確にされていない要因も少なくない。「社会経済的地位」はまさにその一つである。

### 3.1 メンタルヘルス問題における社会経済的地位の重要性

社会経済的地位が重要なのは、ただそれが多様な健康アウトカムと関連しているという理由だけではない。社会経済的地位は子ども本人の努力や意志にかかわらず、人生の早い段階から成人期まで影響を与え続けるからである（石井, 村山 2019, pp.493-502; 黄 2014, pp. 82-92）。例えば、低所得世帯の子どもが母親の「健診未受診」や「飛び込み分娩」によって、早産や低出生体重児になるリスクが高く、その後はさらに日常生活での欠食、野菜やタンパク質の摂食不足を含む食生活、住居環境の劣悪さ、学校生活での友だちの有無や先生からのソーシャルサポートの不足などの問題に直面するリスクが高い（例：阿部 2012, pp. 255-269; 黄 2014, pp. 82-92 ; 吉住 2016, pp. 408-417; 小西 2004, pp.17-39）。

### 3.2 メンタルヘルス問題における「主観的」社会経済的地位の重要性

しかしながら、上記の社会経済的地位、つまり教育水準、職業、所得といった客観的な指標（例：喜多 2013, pp. 33-43 ; 申, 朱 2017, pp. 121-125）で測定される社会経済的地位はもちろん重要だが、本人の「主観的」社会経済的地位も重視すべき要因ではある——周囲の他者と比較することで、個人の社会経済的地位に関する主観的な感覚が形成され、この主観的社会経済的地位もメンタルヘルスに影響を与えるとされている（例：竹部, 村田, pp. 93-99）。

### 3.3 社会経済的地位がメンタルヘルス問題に至るメカニズムに関する研究の不足

これまでにメンタルヘルスと社会経済的地位との関連について検討した研究が多く蓄積されてきたが、まだ一貫した結論は出ておらず、さらなる研究が求められる（Yang 2022）。また、それらの研究は、アメリカなどの先進国を中心に行われているものが多かった。このような先進国で得られた知見は必ずしも中国などの低中所得国に一般化できるとは言い切れない。例えば、家庭の経済的豊かさが青少年の健康に与える影響について、中国とヨーロッパ、米国、カナダなどの41国の結果を比較した研究によれば、各国の社会文化的背景などの違いにより、社会経済的地位と青少年の健康との関連の複雑さが示されていた（周 2012, pp. 22-28）：中国では家庭の豊かさと子どもの友人数との間に正の関連が見られるが、他国では、家庭の経済的豊かさは子どもの同性友人関係と正の相関が

あること、さらに性別と家庭の豊かさの両方が子どもの親密な友人関係に影響を与えることが示されている。

よって、中国の社会文化的背景に適用可能な低所得の家庭への経済的支援、およびメンタルヘルスサポートの基礎的知見を提供するには、中国現地のデータを収集した上で、「客観的社会経済的地位」と「主観的社会経済的地位」の両方が「子どもとその保護者のメンタルヘルス」に影響するメカニズムを明確にする必要があると考えられる。

#### 4. 調査目的

本調査の目的は、中国の思春期の子どもとその保護者を対象とし、「社会経済的地位」と「子どもおよび保護者のメンタルヘルス」との関連を検討することである。

#### 5. 調査方法

本調査では、現地に出向くことで、学校の関係者に対面で調査の目的や意義などを説明することが可能になったため、より多くの関係者から協力を得ることができた。さらに、現地に足を運ぶことで各学校の詳しい状況を把握しつつ、これに合わせて調査の実施方法（オンライン・紙媒介）を調整することも可能になったため、よりスムーズに調査を行うことができた。

このおかげで、本調査では現時点で、中国の内モンゴル自治区トクト県の教育局（日本では文部科学省に相当）、および安徽省の計3校から調査承認を得ることができ、これらの中学校と高校に在籍する生徒とその保護者（2名、離婚や死別などの特段の事情がある場合は1名）を対象として質問紙調査を実施することができる（表1）。ただし、本報告書を執筆する時点で、内モンゴル自治区トクト県の質問紙がまだ返却されていない、および安徽省における紙媒介での調査もまだ実施されていないため、本報告書の内容は安徽省のオンライン調査のデータのみを用いて作成した。

表 1. 質問表の構成

保護者		思春期の子ども (生徒)	
属性変数	性別	属性変数	性別
	生年月日		生年月日
	出身地		学校
	現在の居住地域		学年
	子どもの人数	主観的社会経済的地位	
	居住状況（例：祖父母との同居）	心理的ストレス	

家庭の社会的経済的地位	職業	<u>派遣労働者、失業者、無職、非技能労働者、農業労働者</u> 非技能・農業労働者階層：集団所有の農地を契約し、農業（林業、畜産業、漁業）を唯一または主要な職業とし、農業（林業、畜産業、漁業）を唯一または主要な収入源としている人； 都市と農村の無職、失業者、半失業者階層：就労可能な年齢で職業を定めていない人（学校生を除く）。	知覚されたソーシャルサポート
		<u>肉体労働者、自営業者、技能労働者、およびそれに準ずる労働者</u> 産業労働者階層：第二次産業で手作業や半手作業に従事する生産労働者、建設労働者、およびその関係者。	自尊感情
		<u>一般管理職、一般専門職、技術職、事務職</u> 商業サービス業労働者階層：商業やサービス業における非専門的、非肉体的、肉体的労働者； 事務職階層：日常的な事務処理で部門長を補佐する専任の事務職で、主に党・政府組織の中・下級公務員、あらゆる所有形態の企業・公共機関の一般管理職、非専門事務職などで構成される。	養育態度
		<u>中間管理職、中堅の専門職・技術職、専門職補佐</u> 専門職・技術職階層：各種経済構成機関（国家機関、党組織・団体組織、国営公営企業・公営機関、集団企業・公営機関、各種非公有経済企業を含む）において、各種専門的・科学的業務を専門とする人。	家庭の社会的資本
	<u>上級専門管理職、上級専門技術職、専門監督職</u> 国家・社会管理職階層：党、政府、機構、社会組織で実際の行政権限を行使する指導的幹部； 管理職階層：大・中企業の経営者でない高級・中級管理職； 民間企業家階層：一定の民間資本または固定資産を所有し、利益を得るために投資を行う者。	メンタルヘルス	
学歴	中学とそれ以下		
	高校あるいは中等専門学校/専門学校/技術労働者学校		
	大学		
	修士とそれ以上		

家庭の月収	当地の最低生活保障制度を受けている	
	3千元以下（約60000円）	
	3~5千元（約60000~100000円）	
	5~8千元（約100000~160000円）	
	8千~1万元（約160000~208315円）	
	1.2~2万元（約250000~400000円）	
	2万元以上（約400000円）	
主観的社会経済的地位		
家庭ストレス		
夫婦関係		
メンタルヘルス		
出身家庭のサポート		

## 6. 調査結果

2024年2月までに、生徒207名、および保護者364名のデータを収集した。

生徒に関する情報は、表2に示されている。多くの生徒が「Naning Middle School」と「Maanshan No.2 High School」に所属しており(96.62%)、中でも高校2年生の人数が最も多く、81.64%を占めている。

表2. 生徒の情報

		人数 (単位:名)	割合 (%)
学校	The Affiliated Middle School of Anhui University of Technology	1	0.00
	Naning Middle School	25	0.12
	Maanshan No.2 High School	175	0.85
	Maanshan Xiushan Experimental School	1	0.00
	Dantu Senior High School	1	0.00
	Ma'anshan Jianzhong School	1	0.00
	Ma'anshan No.8 Middle School	1	0.00
	不明	2	0.01
性別	男性	105	0.51
	女性	102	0.49
	12	1	0.00

年齢 (単位： 歳)	14	1	0.00
	15	3	0.01
	16	135	0.65
	17	54	0.26
	18	10	0.05
	19	1	0.00
	不明	2	0.01
学年	中学1年生	1	0.00
	中学2年生	1	0.00
	中学3年生	1	0.00
	高校1年生	18	0.09
	高校2年生	169	0.82
	高校3年生	17	0.08
合計人数 (単位：名)		207	

保護者に関する情報は、表3に示されている。保護者の中には、学歴が「高校あるいは中等専門学校/専門学校/技術労働者学校」や「大学」の人が多い(67.86%)ことが示された。また、職業に関しては、「派遣労働者、失業者、無職、非技能労働者、農業労働者」や「肉体労働者、自営業者、技能労働者、およびそれに準ずる労働者」が47.53%を占めている一方で、「中間管理職、中堅の専門職・技術職、専門職補佐」や「上級専門管理職、上級専門技術職、専門監督職」の割合が20.88%しかない。さらに、月給の74.45%が5~8千元(約100000~160000円)であることがわかった。

表3. 保護者の情報

		人数 (単位：名)	割合 (%)
性別	男性	149	0.41
	女性	214	0.59
	不明	1	0.00
年齢	28~73	332	1.00
	無回答	32	0.10
	1	233	0.70
	2	130	0.39

子どもの人数	3	1	0.00
学歴	中学とそれ以下	99	0.27
	高校あるいは中等専門学校/専門高校/技術労働者学校	121	0.33
	大学	126	0.35
	修士とそれ以上	18	0.05
職業	派遣労働者、失業者、無職、非技能労働者、農業労働者	61	0.17
	肉体労働者、自営業者、技能労働者、およびそれに準ずる労働者	112	0.31
	一般管理職、一般専門職、技術職、事務職	109	0.30
	中間管理職、中堅の専門職・技術職、専門職補佐	53	0.15
	上級専門管理職、上級専門技術職、専門監督職	23	0.06
	無回答	6	0.02
家庭の月収	当地の最低生活保障制度を受けている	1	0.00
	3 千円以下 (約 60000 円)	11	0.03
	3~5 千円 (約 60000~100000 円)	49	0.13
	5~8 千円 (約 100000~160000 円)	91	0.25
	8 千~1 万円 (約 160000~208315 円)	92	0.25
	1.2~2 万円 (約 250000~400000 円)	88	0.24
	2 万元以上 (約 400000 円)	31	0.09
	無回答	1	0.00
合計		364	

また、社会経済的地位とメンタルヘルスに関しては、表 4 に示されている。これによれば、生徒の主観的家庭・学校地位の低群（家庭：55.07%；学校：67.63%）は高群（家庭：44.93%；学校：32.37%）より人数が多いことが示されている。一方、保護者の主観的社会経済的地位の低群は 高群より少ない（低群：36.54%；高群：63.36%）。メンタルヘルスについて、不調を感じる可能性がある（高群）割合は、生徒 42.72%、保護者 25.21%であった。

表 4 社会経済的地位とメンタルヘルスに関する情報

	生徒				保護者	
	(主観的)	(主観的)	主観的 社会経済	メンタル ヘルス	主観的 社会経済	メンタル ヘルス



		家庭 地位	学校 地位	的 地位		的 地位	
低 群	MIN	1	1	2	12	2	12
	MAX	5	5	10	27	5	27
	人数 (単位：名)	114	140	122	131	133	267
	割合 (%)	0.55	0.68	0.59	0.64	0.37	0.75
高 群	MIN	6	6	11	28	6	28
	MAX	10	9	17	43	10	40
	人数 (単位：名)	93	67	85	75	231	90
	割合 (%)	0.45	0.32	0.41	0.43	0.63	0.25
平均値		5.26	4.47	9.72	25.67	6.08	23.60
標準偏差		1.56	1.58	2.72	5.98	1.70	5.45
合計		207			206	364	357

## 7. 考察

今回は安徽省の中学校と高校から、中学生から高校生、およびその保護者のデータを用いて結果をまとめた。その結果、保護者の中で職種が労働者、家庭の月収が8千元（約160000円）以下の人が多かったことが示された。それに対して、保護者の主観的社会経済的地位の高群の割合が低群より大幅に大きかった。このような、客観的な指標と個人の主観的な感覚の差をさらに分析し、「学歴、職業、収入という客観的な指標で測定される」社会経済的地位と、「自分が社会の序列構造のどこに位置するかについての認知」と定義される主観的社会経済的地位が異なる側面を反映しているとの仮説を検証できる可能性があると考えられる。

## 8. 今後の研究への展望

本調査は中国の内モンゴル自治区トクト県および安徽省の中学校と高等学校（高校）に在籍する生徒、およびその保護者を対象として実施したが、今回の分析に用いたのは安徽省のデータのみであった。内モンゴル自治区トクト県での調査実施は中学校で行われたため、データを手に入れたら、両地の比較を行ったり、中学生の状況をより把握したりすることが可能だと考えられる。

また、安徽省ではオンライン調査を中心に実施していたが、3月中に紙媒体で調査を行う予定である。それにより、今回の都市内を中心としたデータに加えて、農村部のデータも収集できる見込みである。特に、地域差が激しい中国においては、複数の地域からデータを収集することが必要だと考えられる。

上記の調査結果は追加の経済的支援と適切なメンタルヘルスサポートを提供するための理論的根拠となり、子どもや保護者のメンタルヘルスの改善に資するものと期待している。特に、客観的指標と主観的指標の両方から社会経済的地位の影響を検討することで、子どもと保護者へのそれぞれの影響、およびその影響の違いを示すことが可能になると考えられる。その結果を用いて、経済的支援とメンタルヘルスサポートをより効果的に組み合わせるための根拠が得られると期待される。さらに、両親の実家からのサポートを含む文化的特徴や男女差も検討する予定である。その結果に基づき、文化的特徴や男女差を考慮した、より質の高い適切な支援やサポートを提供できると考えられる

## 9. 謝辞

今回の調査に当たって、「途上国開発・国際協力分野国際調査支援」の機会とご支援を与えてくださったグローバル協力センターの皆様へ深く感謝申し上げます。当支援金を生かして、1) 現地に足を運び、対面で学校の関係者に調査の主旨を説明することで、相手の信頼を得ることができたことについても、2) 関係者との打ち合わせを通じてお互いの状況を理解し、これに合わせて調査の実施方法を迅速に調整することができたことについても、心から感謝を申し上げます。

## 10. 参考文献

阿部彩(2012)「子どもの健康格差の要因」『医療と社会』第3号(第22巻)、pp. 255-269.

アクサ「職場でのメンタルヘルス支援体制：日本が世界16の国と地域の中で最下位」

<https://www2.axa.co.jp/info/news/2023/pdf/230316.pdf> (2024/02/02 アクセス)

竹部成崇, & 村田光二(2016)「主観的社会経済的地位が援助意図に及ぼす影響 社会経済的地位が高い個人の方が高い援助意図を持つ場合」『人間環境学研究』第2号(第14巻)、pp. 93-99.

黄小瑞(2014)“社会経済的地位の測定指標と合成方法.”*全球教育展望*.42.12:pp. 82-92.

イプソス「World Mental Health Day 2022」

[https://www.ipsos.com/sites/default/files/ct/news/documents/2022-10/Ipsos-World-Mental-Health-Day-2022\\_Report\\_0.pdf](https://www.ipsos.com/sites/default/files/ct/news/documents/2022-10/Ipsos-World-Mental-Health-Day-2022_Report_0.pdf) (2024/02/04 アクセス)

- 石井僚, 村山航, 福住紀明, 石川信一, 大谷和大, 榎美知子, . . . 田中あゆみ(2019)「家庭の所有物を用いた中学生用簡易版社会経済的地位代替指標の作成」『心理学研究』第5号(第90巻)、pp.493-502.
- 喜多歳子, 池野多美子, & 岸玲子(2013)「子どもの発達に及ぼす社会経済環境の影響: 内外の研究の動向と日本の課題」『北海道公衆衛生学雑誌』(第27巻)、pp. 33-43.
- 小西祐馬(2004)「調査報告: 子どもの生活と社会階層: 北海道子どもの生活環境調査」『教育福祉研究』第2号(第10巻)、pp. 17-39.
- 申雲, &朱玉芳(2017),“社会経済的地位,収入格差と健康レベル---GFPD データに基づいた経験証拠.”軟科学.31.7:pp. 121-125.
- Yang, D., Hu, S., & Li, M (2022) , “The influence of family socioeconomic status on adolescents’ mental health in China.” *International Journal of Environmental Research and Public Health*.19.13:7824.
- 吉住隆弘 (2016) 「生活困窮者世帯の子どもにおけるソーシャルサポートと QOL の関連: 生活保護世帯の中学生に着目して」『発達心理学研究』第4号(第27巻)、pp.408-417.
- 周華珍 (2012) ,“家庭裕福程度が青少年の健康に対する影響の分析.”*山東青年政治学院学报*.28.6:pp. 22-28.